

肌で感じた土木の力

道路や橋、河川、海岸などを整備する建設分野の魅力を若い人たちに直接感じてもらうため、第一線の現場で働く技術者を訪問する見学会がこのほど、神戸市内で開かれた。兵庫県神戸土木事務所の土木技術者の案内で、県立兵庫工業高校(同市兵庫区)の生徒5人が、住吉川(東灘区)で最近整備された魚道を見学し、日本最古の河川トンネル「湊川隧道」(兵庫区)を歩くなど、住民の生活を陰で支えてきた土木施設に触れた。

将来にわたって建設分野の担い手を確保するため、建築や土木の魅力を感じてもらおうと、「兵庫県建設業育成魅力アップ協議会」が「社会基盤整備と建設業の魅力発信事業」を企画し、その第一回として見学会が開かれた。

県立兵庫工業高校生が現場見学

見学会に参加するのは、兵庫工業高校で土木などを学んでいる都市環境工学科2年の男女5人。それぞれが将来は建設分野で働くことを希望している。



自然石の魚道
最初に向かったのは、六甲山から神戸市東灘区の住宅街を流れ、大阪湾に注ぐ住吉川。両岸に遊歩道があり、水量が豊富で水質も安定しており、市民の散策や子どもたちの水遊びの場になっている。



見学したのは「第8号、第9号魚道」。川のほろほろの習性など生物学者らの意見を取り入れ「魚の気持ち」になつて石の積み方まで工夫したと植野主査。手に血豆を作りながら自然石を運んで整備した魚道だ。

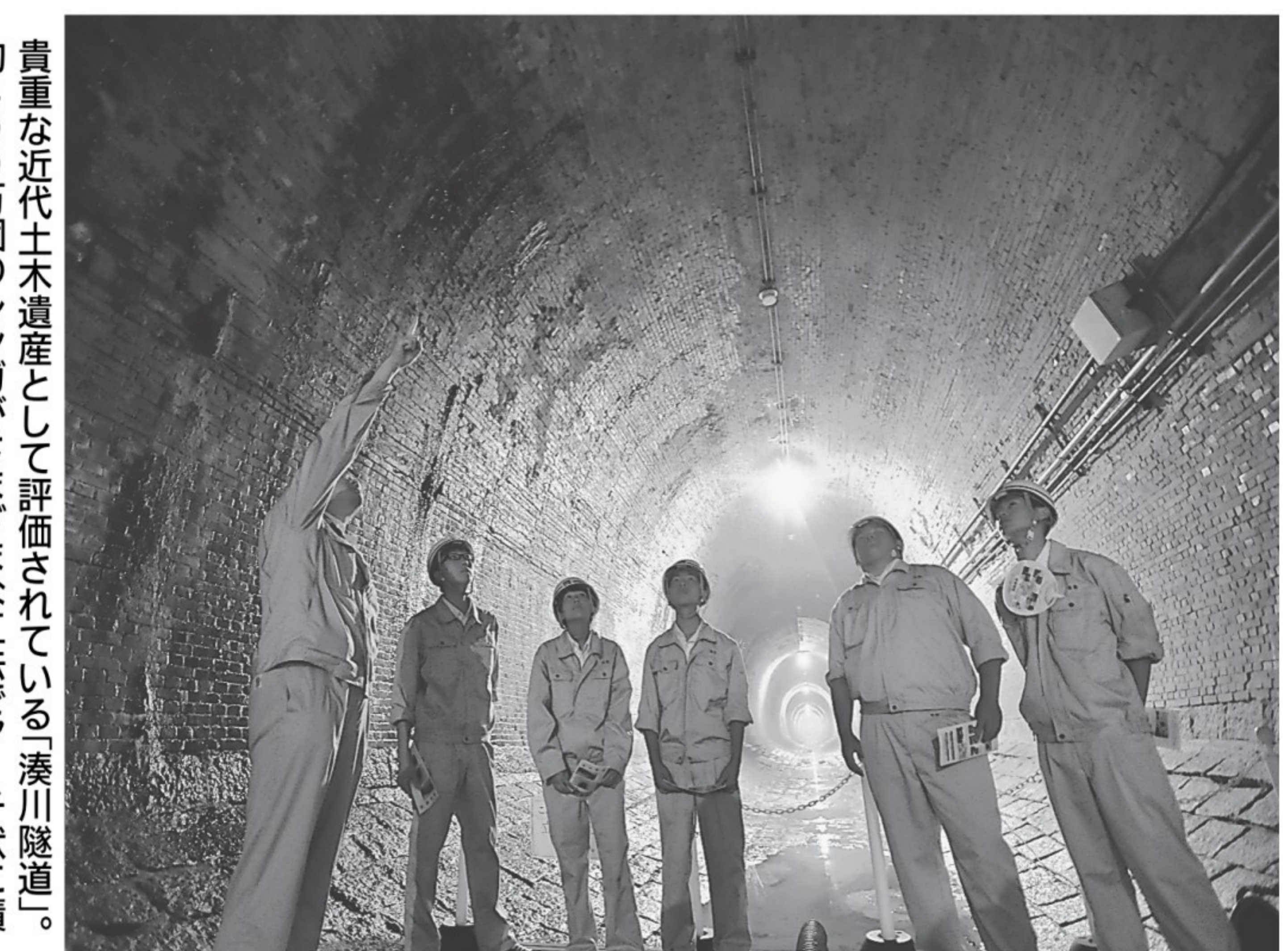
「魚の気持ち」で川を整備

段差の直前に設けられた水たまり部は、アユが遡上する際に勢いをつける「助走路」になる。一見したところでは魚道と分からないように、自然石を使い周辺の環境にも溶け込むように整備されている。

「急傾斜地崩壊防止工事」が完了した現場。「命を守るために事業している」と説明する谷口主査。神戸市東灘区



技術を駆使し命を守る



湊川隧道
見学会の最後は、日本初の河川トンネルとして1901年に完成した湊川隧道を訪れた。たびたび氾濫した旧湊川の付け替え河川として、会下山をつるはしやのみを使って手作業でくりぬいた湊川隧道は、内壁にレンガが「イギリス積み」や「長手積み」などさまざまな工法でアーチ状に積み上げられており「近代土木の英知が結集した歴史遺産」と評価されている。

先人の技 後世に伝える

見学会の最後は、日本初の河川トンネルとして1901年に完成した湊川隧道を訪れた。たびたび氾濫した旧湊川の付け替え河川として、会下山をつるはしやのみを使って手作業でくりぬいた湊川隧道は、内壁にレンガが「イギリス積み」や「長手積み」などさまざまな工法でアーチ状に積み上げられており「近代土木の英知が結集した歴史遺産」と評価されている。

現場見学を終えて

最新の技術に感動
福原陽向さん「特殊なワイヤを使い、巨大な落石さえも柔軟に受け止めることができる最新の高エネルギー吸収ネットに衝撃を受けました。技術革新に感動した」
普段でできない経験
屋敷迅さん「普段はなかなか見られない土木現場を直接見て、現場を肌で感じることで、本や講義だけでは決して得られない貴重な経験をもらいました」
学ぶべきことが多い
田部龍太郎さん「将来は土木技術者になりたいと思っています。土木の技術だけでなく、隧道では保存など歴史への配慮もされていた。多くの現場を見せてもらって、あらためて自分にはまだまだ学ぶべきことがたくさんあることを痛感しました」
職域の広さに驚き
岡田懐季さん「自然石の魚道に驚きました。治水だけでなく、かつての豊かな自然を復活させようとして、自然石を使い、アユなどが遡上できるように生態系にも配慮していた。土木の幅広さを感じました」
明確な目標持てた
武智喜子さん「最前線で活躍されている女性の技術者とお会いでき、話をすることができた。自分の仕事に自信を持ち、土木技術についてしっかりと説明されている姿を見て、私にも明確な将来の目標ができました」



県立兵庫工業高校都市環境工学科2年生の(左から)福原さん、屋敷さん、田部さん、岡田さん、武智さん